

第6学年 教科「おおたの未来づくり」学習指導案

日 時 令和5年2月15日(水)

第5校時 13:35~14:20

対 象 第6学年 89名

授業者 () () ()

研究主題

地域とともに生きる児童の育成 ～地域財発掘からのカリキュラム開発～

1 単元名「つなぐ 広げる 未来の矢口」【B 地域の創生】(24時間扱い)

2 単元設定の理由

本校の学区域内には、「安方商店街」「矢口の渡商店街」という2つの商店街がある。本学年の児童は、第2学年生活科「町探検」、第3学年社会科「商店街見学」図工科「商店街ミニチュア作り」、第5学年総合「米作り」の学習で、商店街の見学やインタビュー等の活動を行ってきた。様々な関わりから、2つの商店街を地域の一員として身近に感じ親しみを覚えている児童が多い。

本単元は、6年間の学びの集大成として、培ってきた自分たちの力を生かしてできそうなこと・やりたいことを児童が自ら考えるところから学習をスタートした。『私たちが育ててくれた矢口の街に恩返しをしたい。』という思いから、地域に関する問題発見や課題解決の方法を自主的に考え始めている。

教科「おおたの未来づくり」として、商店街、日本工学院専門学校の教員(実社会で活躍する様々な人々)と連携し、学年の全児童がGoogle Chrome 端末を使った動画づくりのスキルを習得し(ICTの活用)、地域を盛り上げるイノベーションを起こし、矢口地域の活性化を図っていく。友達や地域の人と協働し、多様な考えを出し合った上で方向性を決定していくこと、アイデアを組み合わせよりよいものを作り上げるための議論、互いの特長を生かして作業を分担すること等を通して、学習目標や学習過程を自ら設定し実践する力、試行錯誤を繰り返しよりよいものを作り上げていく力を更に磨いていく。この経験から、地域に愛着をもち、今後も地域とともに生きることを考え行動を起こすことができる児童を育成していく。

3 単元の目標

【知識及び技能】矢口地域の商店街に関する情報や取組の理解を基に、地域の新たな取組を創出し、その価値を関係者に分かりやすく伝えることができる。

【思考力、判断力、表現力】自ら得てきた情報をもとに、商店街を盛り上げるためのコンセプトを考え、創出したものをよりよいものにするための試行錯誤や工夫を重ねることができる。

【学びに向かう、人間性等】地域の一員として、地域創生に参画しようとする意欲をもち、友達や地域の方と協働的に取り組もうとしている。

※その他、ICT 機器の活用における、知識・技能、思考力、判断力、表現力等。

4 単元の評価基準

内容	過学習	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度
B 地域の創生	コンセプト設定	①矢口地域の商店街に関する情報を、多面的・多角的に収集することができる。	①収集した情報を整理して、地域創生のコンセプトを設定することができる。	①コンセプトを設定するために、講話を聴くことや調査等にすすんで取り組み、収集した情報を協働して整理しようとしている。
	発想・設計	②新たなアイデアやデザインを生み出すために、現行の地域創生の取組みに関する知識を習得することができる。 ③習得した知識を基に新たなアイデアやデザインを生み出すことができる。	②コンセプトに合った地域創生の取組のアイデアやデザインを、地域性・公共性・持続可能性等を踏まえて考えることができる。	②コンセプトに合った取組のアイデアやデザインを創出するために、自分と他者のよさを生かし、協働的に取り組もうとしている。
	創出・発信	④新たな地域創生の取組の価値を関係者に分かりやすく伝えることができる。	③調査の結果や商店街の関係者からのフィードバック等を生かし、試行錯誤を重ね、内容を改善することができる。	③調査の結果や商店街の関係者からのフィードバックから、すすんで検証、改善をしようとしている。(試行錯誤)
共通事項	ICTの活用	①Google Chrome 端末を使用して行う情報収集や、資料・動画の作成の基本的な操作方法を身に付けている。	① Google Chrome 端末の特性を生かし、活動の効率を上げたり分かりやすく表現したりして、効果的に活用している。	④モラルや他者意識をもって Google Chrome 端末を活用しようとしている。 ⑤他者との協働、振り返りと改善の為に Google Chrome 端末を活用しようとしている。

5 使用する教材

① Google Chrome (一人一台のタブレット端末)

- ・ インターネット、地図アプリ…商店街、矢口地域の歴史についての情報収集
- ・ Google スライド (プレゼンテーションソフト) …進捗状況の共有のための発表資料の作成
- ・ Google ドキュメント (文書作成ソフト) …インタビュー原稿や動画構成案を作成しグループで共有
- ・ Google フォーム (アンケートアプリ) …アンケート調査や投票
- ・ スクールタクト・ムーブノート (ノートアプリ) …考えの蓄積や意見集約や共有
- ・ カメラ…動画撮影
- ・ Adobe Creative Cloud Express (動画編集ソフト) …動画編集・ポスター作成で活用

② レーザーカッター

3つに分かれたグループの内の一つ、企画デザインプロジェクトは商店街の方々の話を聞き、その思いを受け止めた上でグッズの考案を進める。レーザーカッターを使用し、試作品作りを重ねる

ことで自分たちの思いを形にし、地域の思いに応える。最終的には、地域を盛り上げる一助となるものを作り、プレゼントとして地域の方々に渡す。

③ 協力企業・店舗

- ・ 矢口の渡商店街…あづまや化粧品店（商店街会長）
インド料理ディープソン、リヨン・モアール、伊勢屋、とみや呉服店
- ・ 安方商店街 …華栄（中華料理屋）（商店街会長）
スーパーもりたや（商店街副会長）、草津湯、小林海苔店
- ・ 日本工学院専門学校…Google Chrome 端末を使った動画作成における指導、アドバイス

6 指導観

(1) 単元観

第5学年では、教科等の学習に関連付けて【A 製品の開発】を、第6学年では【B 地域の創生】を指導する。

第5学年【A 製品の開発】では、社会科「わたしたちの生活と食料生産」での学びを土台として、米作り農業の発展について消費者や生産者の立場から多角的に思考する中で、株式会社亀田製菓の新たな商品開発を行った。その際、大田区の特徴を取り入れ提案した。

第6学年【B 地域の創生】では、これまでに他の学年が学習してきたものづくりや大田区の特徴を踏まえて、身近な地域を盛り上げる活動を通しておおたの未来づくりについて実践的な取組を発信する。本単元では、より身近である「矢口地域の未来」に焦点化して学習を行う。児童が、地域の特徴をより豊かにする取組を発信していく学習活動を通して、よりよい未来を実現するための創造的な資質・能力を育成する。

(2) 児童観

第6学年の児童89名（1組30名、2組30名、3組29名）は、目的意識を明確にもち意欲的に学習に取り組むことができる。グループ学習等で協働して活動を進める際には、修正点や改善案に対し積極的に議論することができ、皆で意見交流をしたり何かを作り上げたりすることに手ごたえや達成感を感じている児童が多い。ICT機器の活用においては、文書作成ソフトやプレゼンテーションソフト、動画編集ソフトを使い、状況や用途に応じて使い分ける技術に長けている。

一方で、何事に対しても高い興味関心を示す傾向にあるが、コロナ禍の影響により体験的な活動の経験を十分に積んでおらず、自ら計画を立てて取り組むことや見通しの定められていない活動に対して、自信をもつまでには至っていない。

本単元の学習の中で、自分たちで決めた学習課題や学習サイクルを実践していくこと、調整や改善を試しながら最後までやり抜くこと、様々な人との関わりを充実させていくことを通して、自信をもち自ら未来を切り開いていく力を育んでいく。

(3) 教材観

本単元では、矢口小学校に隣接している2つの商店街の協力の下、自分たちの力のできる地域創生に取り組んでいく。3つのグループ（矢口の渡商店街プロジェクト、安方商店街プロジェクト、企画デザインプロジェクト）に別れて活動させ、児童が主体的にコンセプトを設定したり、プロジェクトを進行するための計画を立てたりできるようにした。また、地域の方々へのインタビュー活動を設定し、課題把握や現状を分析し理解する力を養っていく。創出したものを、表現したり発信したりする手段の1つとしてはGoogle Chrome 端末を使用し、情報活用能力の向上を図っていく。

友達や地域の人と協働し、多様な考えを出し合った上で方向性を決定していくこと、アイデアを組み合わせてよりよいものを作り上げるための議論、互いの長を生かして作業を分担すること等を通して、学習目標や学習過程を自ら設定し実践する力、試行錯誤を繰り返しよりよいものを作り

上げていく力を更に磨いていく。この経験から、地域に愛着をもち、今後も地域とともに生きること
を考え行動を起こすことができる児童を育成していく。

7 指導計画と評価計画 (24 時間扱い)

過 学 程	時 間	主 な 学 習 活 動	※指導上の留意点 ●協力企業等の参画 ☆ <u>評価基準 (方法)</u>
コ ン セ プ ト 設 定	1	【教科「おおたの未来づくり」について知り、6年生としてできることを考えよう】 ○教科「おおたの未来づくり」について知る。 ・今までの学習を生かして、できることを考える。 ・矢口の地域について調べる。 ○地域の人の声を聞く。(商店街会長の話) ・自分たちにできることは何か、再度考える。	※主体的に活動し責任や使命感を感じられるよう、行事等の校内の取り組みでやってきたことを例に挙げ、意欲付けする。 ☆ <u>B 主①知① (発言、アンケート)</u> 共主④ ●矢口の渡商店街会長、安方商店街会長 ☆ <u>B 主①思① (発言)</u>
	2		
3			
		CM 動画やオリジナルグッズを作って、矢口の地域を盛り上げよう！	
発 想 ・ 設 計	4	【3プロジェクトに分かれて計画を立てよう】 ○矢口の渡商店街プロジェクト、安方商店街プロジェクト、企画デザインプロジェクト、に分かれて動画・グッズ作り等の計画を立てる。	
	5 6 7	矢口の渡商店街 安方商店街プロジェクト	企画デザインプロジェクト
発 想 ・ 設 計	8	①地域や商店街の情報を集める。 ☆ <u>知② (発言・ワークシート)</u>	①キャラクター等のデザイン考案の為の情報を集める。 ☆ <u>知② (発言・ワークシート)</u>
	9	②どのような動画を作りたいか整理する。 ☆ <u>B 思② (発言・提出資料)</u>	②対象を決め、どのように作成していくかを整理する。
	10	③誰に、どのように話を聞くか整理する。 ☆ <u>B 主② (発言・提出資料)</u>	③どのような物品が作成できるかを考える。 ☆ <u>B 思② (発言・ワークシート)</u>
	11	④商店街へインタビューに行く。 ☆ <u>B 知① (観察・ワークシート)</u>	④商店街に情報収集に行く。 ☆ <u>B 知① (観察・ワークシート)</u>
	12	⑤動画・ポスターの内容を考え、作成する。 ☆ <u>B 知③思②主② (発言・作成物・ワークシート)</u>	⑤ポスター、絵本、グッズ等の内容を考え、作成する。 ☆ <u>B 知③思②主② (発言・作成物・ワークシート)</u>
	13		
	14		
15			
16	17	【動画作成の仕方について学ぼう】 ○アプリケーション Adobe Creative Cloud Express を使った動画の編集方法を知り、動画の編集をする。	●日本工学院専門学校教員 ☆ <u>共知①主② (観察)</u>

創出・発信	18 ★ 本時	<p>【作成した動画、グッズ等を紹介しよう】</p> <p>○地域の人と、他のプロジェクトの人に、自分のプロジェクトで作ったものを紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のプロジェクトのよいところを共有し合う。 ・さらによりよいものにするためにはどうしたらよいか、アドバイスをし合う。 ・アドバイスを受けて、改善策を考える。 <p>○動画の最終編集、グッズの生産をする。</p>	<p>※3つのプロジェクトが効果的に交流できるよう指導を工夫する。</p> <p>※作成したものに、地域の人の思いが反映されているか確認する。</p>
	19 20 21 22	<p>【完成した動画、グッズを紹介しよう】</p> <p>○地域の人と、他のプロジェクトの人に、自分のプロジェクトで作ったものを紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成したものを地域の人に届ける。 	<p>☆B 知③思②主②</p> <p>共知①思①主②</p> <p><u>(発言・作成物・ワークシート)</u></p>
まとめ	23	<p>【これまでの活動を振り返ろう】</p> <p>○よりよい未来を創造するために必要なことを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この学習を通して身に付いた力は何か考える。 	<p>※地域に愛着をもって行ってきたことが、地域の人とどのようにつながり成果となったのかを整理させる。</p>
	24	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりについてまとめる。 ・学習したことを、今後どのように生かしていきたいか考える。 	<p>☆B 知④思③主③</p> <p><u>(発言・作成物・ワークシート)</u></p>

8 研究主題に迫るための手立て

(1) 研究の経過

高学年部会常時活動の取り組み

①学びのサイクル「C-TEFCAS サイクル」の導入、活用

日常的に、矢口小学校「C-TEFCAS サイクル」を導入し、学習サイクルを確立している。

国語、社会、算数、社会、理科、総合、体育における一単位時間の学習の流れ

【C】学習課題を知る、学習問題を設定する

【S】既習事項を確認する、学習の見通しをもつ、めあてを立てる、実験方法を考える

【T・E】自力解決の時間、実践、実験、試合等を行う、(とにかく挑戦する)

【F】交流する、比較・検討する、良いところと改善策を伝える

【C】妥当な考え、改善策について考える、考察する、再度作戦を立てる

【A】再考する、再度課題に取り組む、演習問題を解く、再度試合を行う

【S】学習をまとめる、めあて達成の確認をする、振り返りを行う学習感想、次時の確認

「矢口小学校情報機器活用能力表」に則り、以下のアプリケーションソフトを日常的に活用している。

プレゼンテーションソフト

「Google スライド」学習したことや調べたこと、自分の考えをまとめ発表する際等。

文書作成ソフト

「Google ドキュメント」メモを取る、学習したことや調べたことをまとめる、決まったことを共有する等。

アンケートアプリケーションの活用

「Google フォーム」アンケート調査や投票の際等。

ノートアプリケーション

「スクールタクト」「ムーブノート」自分の考えの蓄積、意見集約・共有する際等。

校内掲示板

「まなびポケット、チャンネル掲示板」「Google クラスルーム」連絡や記録の共有等。

「Google ミート」リモート学習の際に活用。

Adobe Creative Cloud Express

本単元の動画・ポスター作成で活用。

(2) 本單元における手立て

探究的な学習における手立て

① 自発的に課題に向かうためのグループ分け

学年を解体し、A 矢口の渡商店、B 安方商店街、C 企画・デザインプロジェクトの3つに分かれて学習を進めている。プロジェクト内で更に6チーム程度に分かれ、同じ課題に対し調査、整理、分析等をそれぞれで役割分担し行う。

② 学びのサイクル「C-TEFCAS サイクル」に則したワークシートの活用

本單元でも、学びのサイクルを意識させることで、自己調整力の伸長と試行錯誤し粘り強くよりよいものを創出する力の育成を図る。

【C】 学習課題を知る。 前時の振り返りから、学習課題を確認する。

【S】 チームでめあてを決める。 タイムスケジュールを組む。(ワークシート)

【T・E】 課題に取り組む。

【F】 進捗状況を整理する。(ワークシート) 進捗状況や内容に関する交流をする。
自分のチームとの比較・検討をする。 良いところと改善策を伝え合う。

【C】 改善点やより良くする点についてチーム内で話し合う。(ワークシート)

【A】 次回までに行うことや、次時で行うことを整理する。(ワークシート)

【S】 めあて達成の確認し、個人の振り返りを行う。(ワークシート)

③ 実社会・実生活の中で学習を行う為の、地域の教育資材の活用

<関わる人> 矢口の渡商店街会長、安方商店街会長、日本工学院専門学校教員、本校教員

創出したものを発信し、そこから得た意見から再度再考し、創出したものブラッシュアップを図る。実社会で活躍する様々な人と関わることで、地域の特色を大切にしようとする意識を高め、他者との特長を生かしてよりよい未来を創造していこうとする態度の育成を図る。

④ ICT 機器の活用

イノベーションを起こすものや取組に関するアイデアやデザインを表現する方法として、1人1台 Chromebook 端末を活用している。本單元では、動画を撮影するにあたっての構図や

カメラワークを学習し、簡単な動画編集の方法を習得できるよう指導計画に設定している。

(3) 本時における手立て

① 学びのサイクル「C-TEFCAS サイクル」を意識した授業構成とワークシートの活用

授業の始めから学びのサイクルを確認しながら、現在地を意識した活動を行う。毎授業のめあて、時間配分や進捗状況、次回の予定などを記入できるワークシートを活用する。このことにより、児童が学びに向かう意欲を高めると共に、見通しをもって計画を実行する姿勢を学ぶことにもつなげていく。

前・後半発表チームを見終わった児童は、発表の良いところは口頭で、よりよくするための助言のみ付箋で行う。発表後のフィードバックの時間に、各チームでのブラッシュアップの話し合いへつなげていく。

② 矢口地域を代表する2つの商店街の特徴を理解し、CMやグッズ開発の手立て

安方商店街と矢口の渡商店街の店舗の方々へのインタビューや動画撮影活動などを通じて、制作したCMやグッズなどの質をよりよいものにしていこうとする態度を養う。そのため、各プロジェクトの部門会議から各プロジェクトでの伝達会議、そして、それぞれの部門ごとに両商店街会長さんや別プロジェクトの友達への中間報告を行う。報告終了後、様々な角度からの助言を聞き入れ、各部門で抱えているミッションを完成させる。

9 本時（18／24）

(1) 本時の目標

前時までに制作した動画やグッズ・ポスターなどを見合い、話し合うことで、よりよい作品づくりに活かすことができるようにする。

(2) 本時の展開（18／24 時間）

	○主な学習活動・児童の反応	◇評価・留意点
導入 (5分)	<p>○各プロジェクトで本時の流れ、めあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>安方商店街の華栄さん、草津湯さん、小林海苔店さん、スーパーもりたやさん、商店街の歴史紹介チームの動画やグッズ・ポスターデザインの進捗状況に関して発表し合い、会長さんや友達から意見をいただこう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>矢口の渡商店街のリヨン・モアールさん、伊勢谷さん、ディープソンさん、商店街の歴史紹介チームの動画やグッズ・ポスターデザインの進捗状況に関して発表し合い、会長さんや友達から意見をいただこう。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで本時の目標、作業について確認する。 ・時間や流れなどを提示する。

<p>展開 (30分)</p>	<p>○前半発表チームの店舗ごとに編集した動画やグッズ・ポスターデザインを会長さんや後半組の友達に発表し、意見をもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インタビュー内容がわかりやすい。 ・CMとしての質が、高い。 ・より工夫したら、もっとよい宣伝になるな。 等 <p>○後半発表チームの店舗ごとに編集した動画やグッズ・ポスターデザインを会長さんや前半組の友達に発表し、意見をもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの店舗の特徴が、もっと詳しくわかるといいな。 ・このグッズのデザイン、とても可愛くていいね。 ・ポスターの構図が、とてもわかりやすい。 等 <p>○前半・後半の各部の発表後、それぞれの部のよかったところやよりよい案など、気付いたことを付箋に書いて掲示板、各部の模造紙に貼る。</p> <p>○付箋をもとに、よりよい動画やグッズ・ポスターにすることについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが考えたキャッチコピー、CMを見てお店に、商店街に足を運んでもらえるだろうか。 ・もう一度、動画撮影に行きたい。 ・インタビューで、もっと詳しく聞いた方がいいかもね。 ・グッズのデザインを、もっと簡素化しないといけないね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気付いたことを共有するための掲示板と付箋紙を用意する。 ・発表後の友達には、よかったことは口頭で、よりよくするための助言のみ付箋に書くよう指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが作った動画やグッズ・ポスターなどは、お店の人に受け入れてもらえるかを振り返る。 <p>◇ 知④新たな地域創生の取組の価値を関係者に分かりやすく伝えることができる。</p> <p>主③調査の結果や商店街の関係者からのフィードバックから、すすんで検証、改善をしようとしている。(観察・発言・ワークシート)</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>○各プロジェクトで、次回の予定を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画の内容を、もっと考えよう。 ・グッズのデザインを、もう一度再考しよう。 ・ポスターの情報量を、もっと増やそう。 <p>○学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかのプロジェクトも頑張っているね。 ・質の高い動画制作に向けて、いい案が浮かんだ。 ・友達の発表を聞いたら、もっと矢口地域を盛り上げたい気持ちが強くなった。 ・次の時間も頑張ろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・次時への見通しをもたせる。

(3) 板書計画

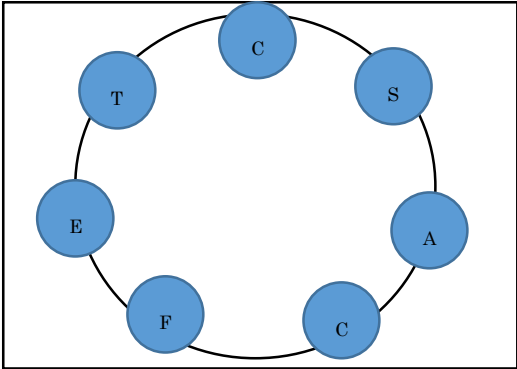
めあて

〇〇商店街の動画やグッズ・ポスターなどの進捗状況に関して発表し合い、会長さんや友達から意見をもらおう。

◎活動計画

1.めあて・計画	分
2.発表（ゲスト）	分
3.ゲスト（発表）	分
4.フィードバック	分
5.次回の予定と振り返り	分

C-TEFCAS サイクル表



The diagram shows a circular cycle with seven blue circles connected by a black line. Starting from the top and moving clockwise, the circles are labeled: C, S, A, C, F, E, and T.

(4) 授業観察の視点

- ・ 学びのサイクル【C-TEFCAS】は、児童の学習において効果的であったか。
- ・ ワークシートの内容は、児童の学習において適切であったか。
- ・ 矢口地域の商店街の特色を理解した上で、自分たちが制作した動画やグッズ・ポスターなどをブラッシュアップしようとしていたか。